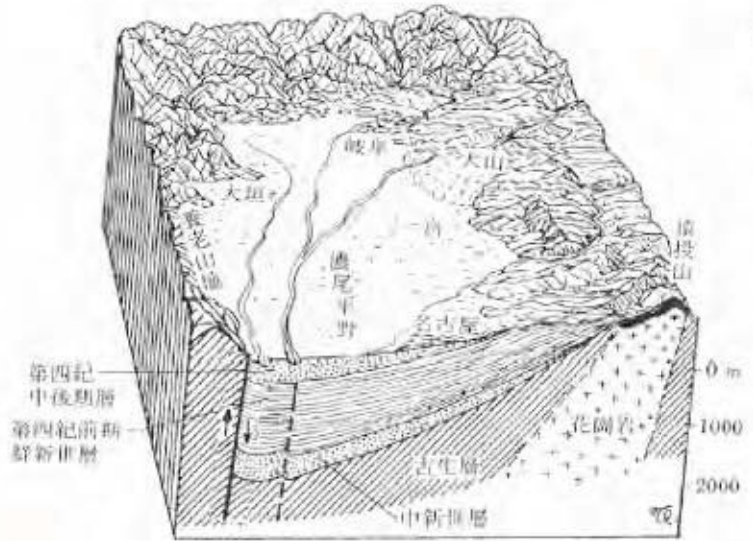


①日本付近のプレート境界 其塚典平(1987)による  
東海地方の沖合の海中では、フィリピン海プレートとユーラシアプレートが、前者が後者の下に沈み込む形でぶつかりあっており、プレート境界型の巨大地震(東海地震、東南海地震、南海地震)の発生が懸念されている。



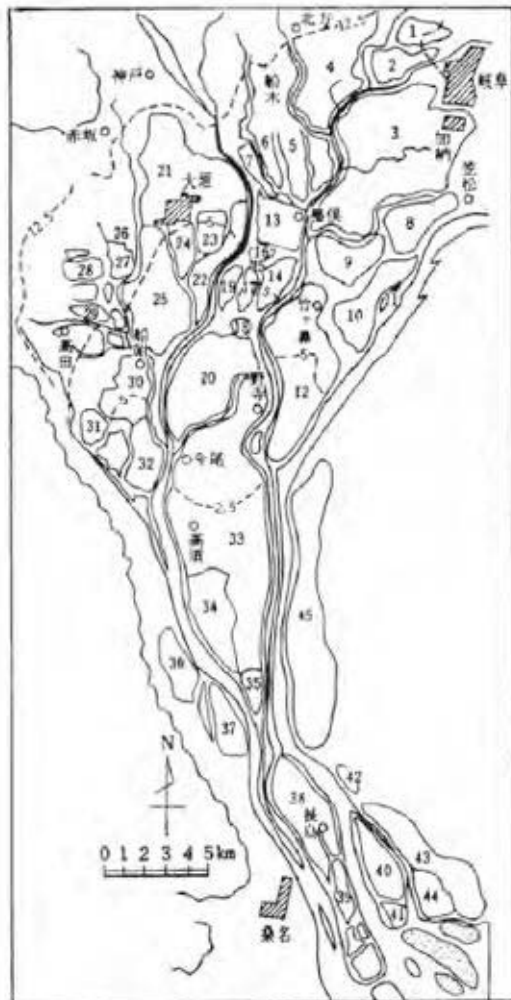
②中部地方の接峰面図 愛知県史編さん委員会編(2010)による  
小さな起伏を省略して、地形の全体的な様子を表した接峰面図によれば、東の本曾山脈から濃尾平野にかけては、徐々に高度が下がっていくのに対して、濃尾平野の西側では、養老山地で急に起伏が上がっている。三河高原や美濃山地は比較的ゆるやかである。



③濃尾平野の鳥瞰と東西断面図 成瀬 洋(1985)を一部改変  
濃尾平野は、西側が養老断層の活動に伴って沈降し、反対に東側が上昇して丘陵や山地となる傾動運動を100万年以上も前から続けており、沈降量は最大で1,500m以上にも達する。この沈降地域を河川が埋め立てて形成した第四紀層も、傾動運動のため西下がりに傾くとともに西部で厚くなっている。本曾三川が平野西部を流れ、台地・丘陵

④輪中の分布 小出 博 (1970) による

江戸時代初期に、尾張側は木曾川左岸に造られた御田堤で守られたのに対して、長良川や揖斐川がまだ乱流していた美濃側には、次々と輪中が形成された。洪水から逃れるために、自然堤防も活かしながら、次第に集落と耕地を囲い込んで、輪中という共同組織ができあがった。しばしばその堤防も決壊することがあり、下流側では排水不良も抱えていた。一段高い水屋をもった住宅や、水路の間に土壌を盛り上げて造られた堀田などの独特の景観を持っていた。

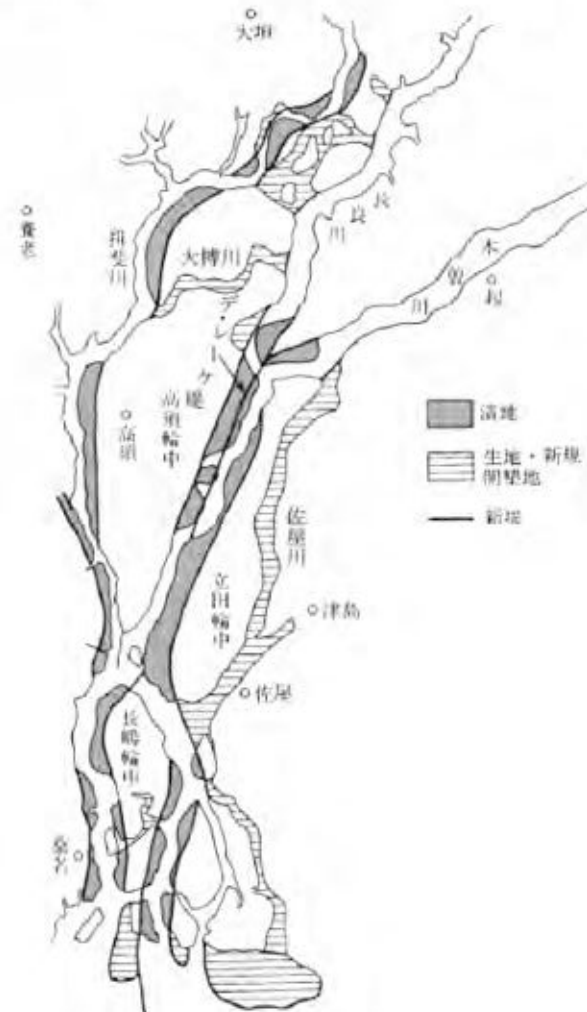


- |    |   |    |
|----|---|----|
| 1  | 武 | 納渡 |
| 2  | 武 | 六牧 |
| 3  | 武 | 橋枝 |
| 4  | 武 | 近木 |
| 5  | 武 | 浦原 |
| 6  | 武 | 結部 |
| 7  | 武 | 神瀬 |
| 8  | 武 | 須村 |
| 9  | 武 | 原坂 |
| 10 | 武 | 江森 |
| 11 | 武 | 村里 |
| 12 | 武 | 里原 |
| 13 | 武 | 横笠 |
| 14 | 武 | 尾地 |
| 15 | 武 | 須田 |
| 16 | 武 | 郷島 |
| 17 | 武 | 須戸 |
| 18 | 武 | 緑明 |
| 19 | 武 | 津桶 |
| 20 | 武 | 田  |
| 21 | 武 | 加立 |
| 22 | 武 | 桑名 |
| 23 | 武 | 立  |
| 24 | 武 | 立  |
| 25 | 武 | 立  |
| 26 | 武 | 立  |
| 27 | 武 | 立  |
| 28 | 武 | 立  |
| 29 | 武 | 立  |
| 30 | 武 | 立  |
| 31 | 武 | 立  |
| 32 | 武 | 立  |
| 33 | 武 | 立  |
| 34 | 武 | 立  |
| 35 | 武 | 立  |
| 36 | 武 | 立  |
| 37 | 武 | 立  |
| 38 | 武 | 立  |
| 39 | 武 | 立  |
| 40 | 武 | 立  |
| 41 | 武 | 立  |
| 42 | 武 | 立  |
| 43 | 武 | 立  |
| 44 | 武 | 立  |
| 45 | 武 | 立  |

⑤明治改修による三川分離 岐阜県博物館 (1990) による

個別の小さな輪中では治水に限界があったので、江戸の宝暦治水でも三川分離が目指された。高須輪中の南で長良川・揖斐川の間の千本松原の締切を担当した薩摩藩の御手伝普請では、多額の出費と多くの犠牲者を出し、木曾三川公園南の治水神社に祀られている。

明治政府は御雇技師のデ・レーケに三川下流の治水計画の立案を命じ、本格的な下流部の改修工事を完成した。大博川や佐屋川を閉め切り、河道を直線化しながら拡幅して、木曾・長良の二河川分を完全分離して流すデ・レーケ堤を設けた。揖斐川筋や長島でも河道が大きく変えられている。



凡 例	
	ダ ム
	浄 水 場 (水道用水)
	浄 水 場 (工業用水)
	水道用水送水管分水地点
	建 設 中
	工業用水配水管
	発 電 所
	水 路



# 河口堰と北中勢水道用水計画

- ◆三重県・水資源総合利用の基本的方向（1992）
  - ・過大な人口予測と水道用水原単位（1人1日当り給水量）の設定
- ◆1993年フルプラン全部変更（2000年目標）
  - ・北勢（水道・工業用水道）に加えて，中勢の水道を指定地域に追加
  - ・現・北中勢水道用水水道用水供給事業（三重県企業庁，1998年に統合）
    - 北勢系第2次拡張事業（長良川水系，1.80m<sup>3</sup>/s）
    - 中勢系（長良川水系，1.04m<sup>3</sup>/s）（河口堰の水道の開発水量2.84m<sup>3</sup>/s）
- ◆北中勢水道用水計画の見直し
  - ・北勢系 計画1日最大給水量 47,600m<sup>3</sup>/日→6,400m<sup>3</sup>/日（2001年4月より）  
全部給水開始時期 平成18（2006）年→23（2011）年に「延期」  
現在施設能力 13.77万m<sup>3</sup>/日 県水日平均受水量 7.1万m<sup>3</sup>/日  
長良川の工水取水口で併用：木曾川大堰から取水
  - ・中勢地域への取水口・導水路に北伊勢工業用水道を利用（長良川から導水）  
83,584m<sup>3</sup>/日→58,800m<sup>3</sup>/s（1998年より）  
平成17（2005）年予定→11（1999）年度より休止中  
君ヶ野ダム，長良川河口堰 14.02万/日 県水日平均受水量 6.1万m<sup>3</sup>/日